

安全を脅かす「委員会活動」や「マイプロジェクト」等は職場に必要な！ 組合員との議論を通じて、安全第一のＪＲ東日本再確立を目指す特別決議

昨年１月２３日「中野電車区イベント働く車両大集合」で、幼児がノッチを扱い車止めに向かって手歯止めを引きずりながら起動する事象が発生した。この事は、１月２７日にテレビや新聞で取り上げられ、ＪＲ東日本の安全に対する信用を失墜しかねない問題となった。これは「自己啓発」を目的とした委員会活動の中で行われたが、安全体制が確保されていないばかりか、現場長が「ノッチを扱うのは知らなかった」という事に現れているように、管理体制も不十分な中で行われた事が明らかになった。「楽しんでもらうために」というサービス精神や「他と違うことをやらなければ」という競争意識が、無意識のうちに鉄道で最も重要な安全を越えてしまい、本来の目的である「自己啓発」や「人材育成」とかけ離れた、命さえも奪いかねない重大事象となってしまった。

大宮支社内においても、昨年２月７日に行われた「大宮運転区ファミリーデー」で東大宮訓練センターにおいて、子どもや訓練もされていない免許不所持者が、列車を運転するという事象が発生した。この事も、安全や管理体制が確立されず「自己啓発」や「人材育成」を目的とした委員会活動の中で行われた事をみれば、中野電車区の事象と同質であり、社会的にもＪＲ東日本の安全意識が問われる事象といえる。私たちは、この事象と真摯に向き合い、問題点を明確にして繰り返さないための取り組みを創りだして行かなければならない。

私たちがこの事に向き合う場合、やった人を問題にするのではない。そもそも、自分だったらどうだったか考えなければならない。その場にいたら「ダメだ」「止めるべきだ」と言えたのか。実際に参加した人たちも「今から考えれば良くないのは分かるが、当時は問題だとは思わなかった」「違和感はあったが、法的に問題がないと言われ納得してしまった」と言われている。あらためて、私たちの安全に対する問題意識を再確立しなければならない。そして、各種委員会活動が「言われたから」「人と違う事をやって目立ちたいから」「発表に間に合わせるために」等のためにやっている現実も報告されている。これでは、人材育成や自己啓発にはつながらず、やっている事はマイナスにしかならない。安全が第一の鉄道において、委員会活動とはどうあるべきか。そして今後のＪＲ東日本を、社会から信用され安全で安心して快適にご利用いただくために、人材育成や自己啓発活動とはどうあるべきか現場第一線から議論して行くことが必要だ。その議論を通じて、安全が脅かされるようなものは当然として、本来の目的から外れるような委員会活動についても即刻中止を求め取り組んでいく。これが、社会的信用を失墜した現状から、信頼回復に向けた私たちの取り組みとなる。

また、ここまでの事象が発生しているにもかかわらず、現場の社員にはまったく伝えられていない。マスコミ報道で、はじめて知ってびっくりしたという人も多い。これでは、他山の石として教訓化することも、繰り返さないための対策を出すこともできない。このままでは、同様の事象を繰り返してしまう。会社は「現場長に徹底したから良い」「職場で伝えるかどうかは現場長の判断」という考え方だが、現場では「支社から伝えるように言われていないから言わない」となっている。結果として誰も判断しない・責任をとらない経営体質を克服しなければならない。我々は、同様の事象を繰り返さないために、社会的信用をこれ以上失墜しないために、そして何より社員・乗客の命を守るために、労働組合として、これらの事象から逃げずに職場から堂々と議論する。そして、言葉だけではなく本当に安全が第一のＪＲ東日本再確立に向けて奮闘する。全組合員の皆さん、共に職場から議論を巻き起こしていこう！

以上、決議する。

２０１６年２月１３日
東日本旅客鉄道労働組合
大宮地方本部
第１６回定期地本委員会